

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を
依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

お客様相談センター【ご利用時間 9:00～18:00】※全日対応 (土・日・祝日対応)

●フリーダイヤル

☎ 0120-20-8822 ※携帯電話、IP 電話からもご利用いただけます。

全国営業拠点

■支店の移転等により連絡がとれない場合は、下記のアドレスから
最新の電話番号をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>



●北海道支店	TEL (011) 786-5122	●北陸支店	TEL (076) 263-4311
●東北支店	TEL (022) 288-8676	●関西支店	TEL (06) 7167-3644
●東京支店	TEL (03) 5753-7703	●中国支店	TEL (082) 504-8282
●関東支店	TEL (03) 6374-5687	●四国支店	TEL (087) 863-6761
●中部支店	TEL (052) 533-0231	●九州支店	TEL (092) 621-5772

工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 (品川インターシティ A 棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99741102 308 F

HIKOKI

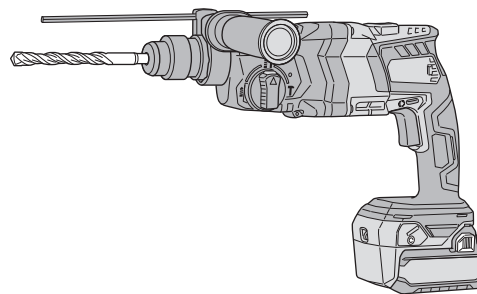
取扱説明書

コードレスロータリハンマドリル

[SDS プラスシャンクタイプ]

36 V 28 mm DH 36DPE 36 V 28 mm DH 36DPF [集じんシステム付]

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



用途

- コンクリートの穴あけ
- アンカ下穴あけ
- タイルの穴あけ
- コンクリートのハツリ、破碎、溝掘り、角出し、はがし
- 金属、木材の穴あけ
- 小ねじ、木ねじの締付け

はじめに

コードレス工具の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	5
リチウムイオン電池の使用上のご注意	7
各部の名称	8
仕様	9
標準付属品	10
別売部品	11

使い方

基本機能について	12
工具の取付け・取りはずし	16
作業モードの設定	17
回転数・打撃数の設定	18
オートストップ機能について	19
スリップクラッチ機構について	21
RFC について	22
保護機能について	23
作業上のご注意	24
穴をあける	25
オートストップ機能を用いて 連続で穴をあける	27
ハツリ・破碎する	29
穴をあける・ねじを締付ける	31
フックの使い方	34
テーパシャンクアダプタの使い方	35
ダストカップ・集じんカップ (B) の使い方	36
コアビットの使い方	37

その他

保守・点検	39
ご修理のときは	裏表紙

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用する
ことはできません。日本国外で使用了場合は、仕様上の
性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理
または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be
sold or used in any other country. Otherwise, product may not
perform as intended. No authorized service or warranty is
available outside of Japan.

⚠警告、⚠注意、注の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容の注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容の注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要な注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① **専用の充電器や蓄電池を使用してください。**
弊社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。
指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② **作業場や保管場所の周囲状況も考慮してください。**
 - コードレス工具は、雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。
感電や発煙の恐れがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
 - 可燃物、可燃性あるいは腐食性の液体やガスがある所での使用・充電・保管をしないでください。
発火や火災の恐れがあります。
- ③ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
切削した物や粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。
- ④ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。
固定が不十分な場合は、加工する物が飛んで、けがの原因になります。

⚠警告

- ⑤ **次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。**
 - 使用しない、または、準備・調整・保守・点検する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑥ **不意な始動は避けてください。**
スイッチに指を掛けて運ばないでください。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑦ **指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメントを使用してください。事故やけがの原因になります。

⚠注意

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、コードレス工具に触れさせないでください。けがの原因になります。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
 - 安全の責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ③ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手が届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
事故の原因になります。
 - コードレス工具を、温度が50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。
劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
- ④ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率良く作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
 - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。
発煙、発火の恐れがあります。

⚠注意

- ⑤ 作業に合ったコードレス工具を使用してください。
- 小形のコードレス工具やアタッチメントは、大形のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。けがの原因になります。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。滑りやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元を安定させて、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- ⑧ コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。
 - 付属品や先端工具の取付け・取りはずしは、取扱説明書に従ってください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。
- ⑨ 調整キーやスパナなどは、スイッチを入れる前に取りはずしてください。
- 調整キーやスパナなどの工具類が、取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは作動時に飛び出して、けがの原因になります。
- ⑩ 油断しないで十分注意して作業をしてください。
- コードレス工具を使用する場合は、取扱い方法、作業の仕方、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。
- ⑪ 十分な防じん対策や飛散防止対策をしてください。
- 特に、人体に有害な成分を加工するときは注意してください。
- ⑫ アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用しないでください。
- アスベストは、人体に肺がん等の重大な健康被害を発症させる物質です。

⚠注意

- ⑬ 損傷した部品がないか点検してください。
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 破損した保護カバー、その他の部品交換は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。誤作動して、けがの原因になります。
- ⑭ コードレス工具の修理は、専門店で依頼してください。
- サービスマン以外の方は、工具本体や蓄電池の分解・修理・改造をしないでください。発火や誤作動など、けがの原因になります。
 - コードレス工具が高温になるなど、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。
 - アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用したコードレス工具の保守・点検・修理は受付けできません。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレスロータリハンマドリルについて、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に確かめてください。
埋設物があると先端工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ② 使用中はサイドハンドルを取付け、振り回されないようにハンドルと、サイドハンドル両方を確実に保持してください。
- ③ 使用中は、工具類に手や顔などを近づけないでください。
- ④ 使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- ⑤ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、工具類や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑥ 蓄電池は確実に取付けてください。
確実にしないと、蓄電池が抜け落ちて、けがの原因になります。
特に高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。
- ⑦ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。
 - 使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
 - 作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
 - 使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。
短絡（ショート）して、発煙・発火などの恐れがあります。
- ⑧ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に変形が生じた場合は、使用しないでください。
短絡（ショート）して、発煙・発火の恐れがあります。

⚠注意

- ① 付属品や別売部品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ③ 作業中は、ヘルメット、安全靴などの安全保護具を着用してください。
- ④ 作業直後の工具類およびその取付部周辺は高温になっているので、触れないでください。
- ⑤ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑥ 運転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- ⑦ 作業の際、機体を無理に押し付けしないでください。
先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。
- ⑧ LEDライトをのぞき込んで、直接LEDライトの光を目に当てないでください。
- ⑨ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。

⚠警告マークについて



このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。
蓄電池を工具本体に装着したまま準備や点検、先端工具の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品はリチウムイオン電池を使用します。リチウムイオン電池には、寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能が付いています。

下記 ①、②、③ の場合、本製品を使用中にモーターが停止することがあります。これは保護機能によるものであり故障ではありません。

- ① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。
速やかに充電してください。
- ② 過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。
スイッチを切り、過負荷の原因を取り除いてください。
- ③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。
蓄電池の使用を中断し、工具本体より取りはずして、風通しの良い日かげなどで蓄電池を十分に冷ましてください。

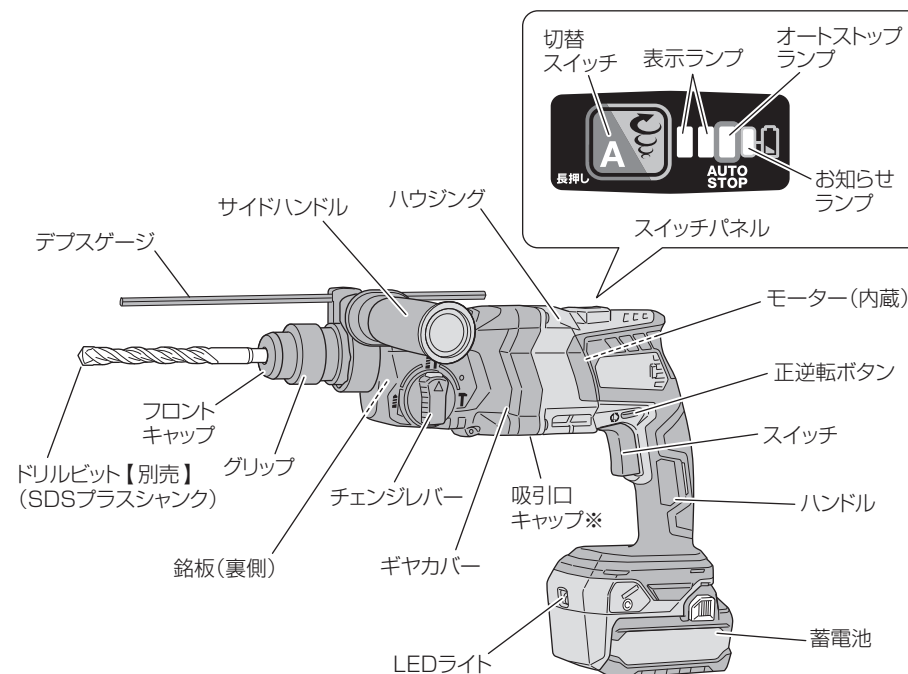
再びご使用になれます。

さらに蓄電池の液漏れ、発熱・発煙・発火を未然に防ぐため、蓄電池の取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を守ってください。

○ 蓄電池は、弊社純正品をご使用ください

弊社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証ができません。

各部の名称



※ キャップは集じんシステムを取付けるとき以外は、はずさないでください。
キャップをはずしたまま使用すると、作業量が低下します。
また、網に粉じんが詰まり、故障の原因になります。

仕 様

形 名	DH 36DPE ^{※1}	DH 36DPF
集じんシステム	未装着時	装着時 ^{※2}
穴あけ能力	コンクリート：3.4～28 mm 鉄 工：13 mm 木 工：32 mm コアビット：25～50 mm ダイヤモンドコアビット：65 mm	コンクリート：4.3～20 mm
無負荷回転数 [気温 20℃満充電時]	0～ 950 min ⁻¹ { 回 / 分 }	
無負荷打撃数 [気温 20℃満充電時]	0～4,300 min ⁻¹ { 打撃 / 分 }	
モーター	直流ブラシレスモーター	
適 用 ビ ッ ト	SDS プラスシャンクタイプ	
工 具 本 体 寸 法 全 長 × 高 さ × 全 幅 [BSL 36A18X 装着時]	370 × 278 × 83 mm	512 × 278 × 103 mm
質 量 [BSL 36A18X 装着時]	3.7 kg (サイドハンドル装着時) 3.5 kg (サイドハンドルなし)	4.8 kg (サイドハンドル装着時) 4.6 kg (サイドハンドルなし)
使用可能蓄電池	マルチボルトタイプ蓄電池	
LED ラ イ ト	白色 LED	
振動 3 軸合成値 ^{※3}	回転+打撃：12.2 m/s ² ^{※4} 打撃：11.0 m/s ²	回転+打撃：10.3 m/s ² ^{※4}

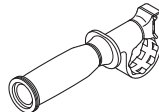
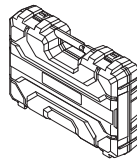
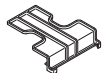
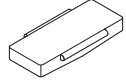
※1: DH 36DPE は、集じんシステムは別売となります。

※2: 集じんシステムを取りはずした状態で使用する場合は、DH 36DPE と同じ仕様になります。

※3: 振動 3 軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値) については、振動 JEMA [一般社団法人日本電機工業会]
ウェブサイト：<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html>
を参照してください。

※4: 振動 3 軸合成値は、EN60745-2-6 規格に基づき測定しています。

標準付属品

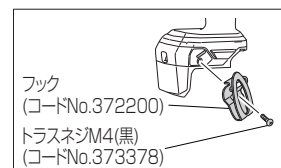
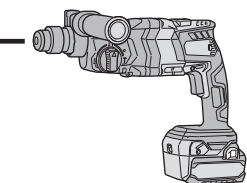
品 名	形 状	DH 36DPE		DH 36DPF
		2XPZ	NN	2XPZ
集じんシステム ●取扱い方法は、集じんシステムの取扱説明書を確認してください。		—	—	1 台
蓄電池 ●取扱い方法は、蓄電池の取扱説明書を確認してください。		2 個 (1 個は本体装着)	—	2 個 (1 個は本体装着)
充電器 ●取扱い方法は、充電器の取扱説明書を確認してください。		1 台	—	1 台
デプスゲージ 		1 本	1 本	1 本
サイドハンドル 		1 個	1 個	1 個
収納ケース 		1 個	—	1 個
電池カバー 		2 個	—	2 個
キャップ 		1 個 (本体装着)	1 個 (本体装着)	1 個 (本体装着)

別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

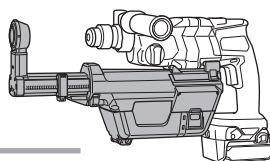
SDS プラスシャンクタイプの先端工具または接続工具を使用してください。

回転 + 打撃	先端工具	接続工具	注
	●コンクリート、タイルの穴あけ、アンカ下穴あけ ドリルビット・デルタゴンビット ●コンクリート、タイルの穴あけ、アンカ下穴あけ ドリルビット(ターバシャンク) (市販品) ●コンクリート、タイルの穴あけ、アンカ下穴あけ デルタゴンビット(ストレートシャンク) ●大径穴あけ ガイドプレート センタピン コアビット ●ケミカルアンカボルトの打込み作業 六角ソケット	(上向き作業時、必要に応じて使用) ダストカップ 集じんカップ(B) - コッタ テーパシャンクアダプタ - チャック ハンドル 13mmハンマドリルチャック - コアビットシャンク - ケミカルアンカアダプタ	
打撃のみ	●アンカ打込み作業 アンカセッタ ●破砕作業 フルポイント ●溝切り・角出し・はがし作業 コールドチゼル カッタ ●溝掘り作業 グルーピングチゼル		
回転のみ	●大径穴あけ 各種ダイヤモンドコアビット ※ ●断熱材入り複合壁、サイディングなどの穴あけ ●鉄筋コンクリート、モルタルなどの穴あけ ●木材、窯業系・金属系サイディングなどの穴あけ 各種ダイヤモンドコアビット ※ ●ねじ締付け作業 プラスビット ドライバビット ●金属、木材の穴あけ 鉄工ドリル(市販品) 木工ドリル(市販品)	- アダプタ(A) - SDSプラスシャンク - チャックアダプタセット 13mmドリルチャック (13VLRB-D) スペシャルスクリュー + チャックアダプタ	
回転 + 打撃	●コンクリート、タイルの穴あけ ドリルビット・デルタゴンビット		

集じんシステムを取付けた状態では、ドリルビット、デルタゴンビット以外の取付けはできません。



※ ダイヤモンドコアビット使用時は、機体の温度が高くなるため連続的な穴あけ作業はできません。連続使用15分につき30分程度休ませてください。



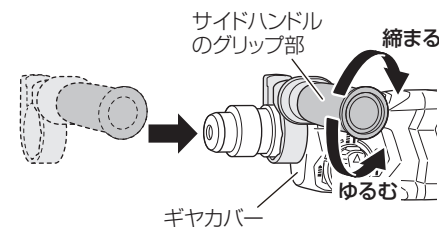
(集じんシステムを取付けた状態)

基本機能について

●サイドハンドルについて

1 サイドハンドルのグリップ部を回してゆるめ、ギヤカバーに突き当たるまで押し込みます。

2 作業に応じて、サイドハンドルを使いやすい角度に調整し、サイドハンドルのグリップ部を回して、しっかりと固定します。

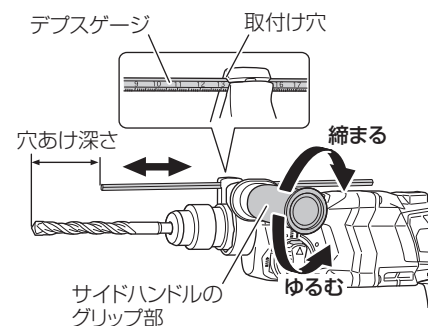


●デプスゲージの使い方

同じ深さの穴を連続してあける場合、デプスゲージを使用することで穴の深さが一定になり、能率が上がります。

1 サイドハンドルのグリップ部を回してゆるめ、サイドハンドルの取付け穴にデプスゲージを通します。

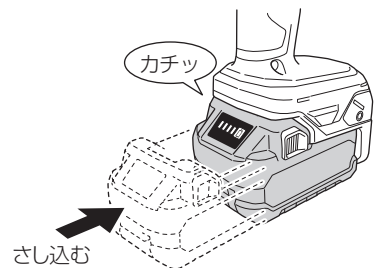
2 所定の穴深さになったときデプスゲージが材料に突き当たるよう位置を調整し、サイドハンドルのグリップ部を回してしっかりと固定します。



●蓄電池の取付け・取りはずし

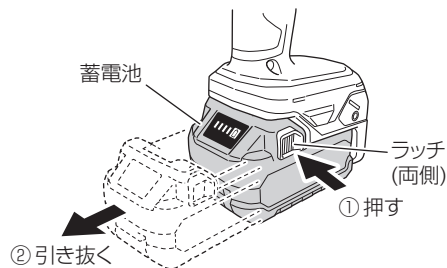
取付けるとき

「カチッ」と音がするまで確実にさし込んでください。



取りはずすとき

両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。

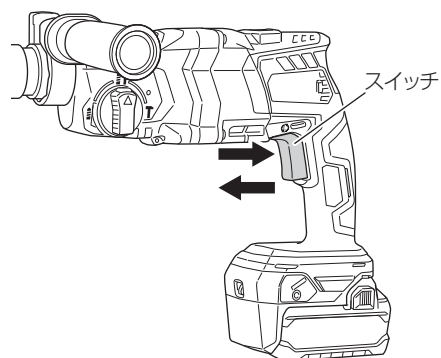


●スイッチについて

スイッチの引き込み量で、無段階に回転数が変わります。

穴あけの開始時や、穴あけのセンターを決めるときには、スイッチを少し引いてゆっくりスタートしてお使いください。

また、スイッチをはなすとブレーキがかかり、すぐに止まります。

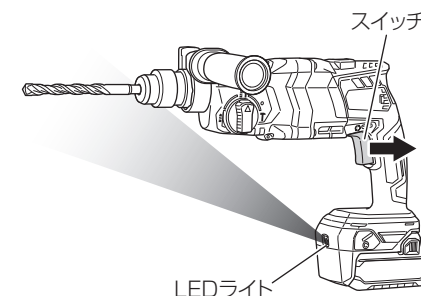


●LEDライトの使い方

スイッチを引いている間、自動的にLEDライトが点灯します。

スイッチから指をはなして、約 10 秒後にLEDライトは自動消灯します。

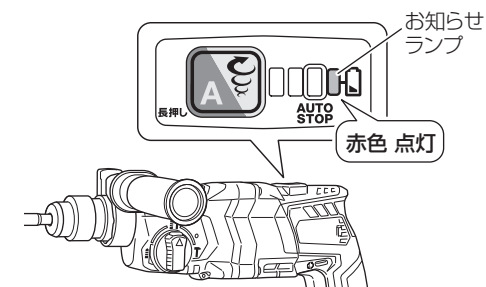
注 レンズ部に付着したごみは、柔らかい布などでふき取り、傷が付かないように注意してください。



●お知らせランプについて

使用中に電池残量が少なくなると、お知らせランプが点灯します。

この場合は、速やかに蓄電池を充電してください。

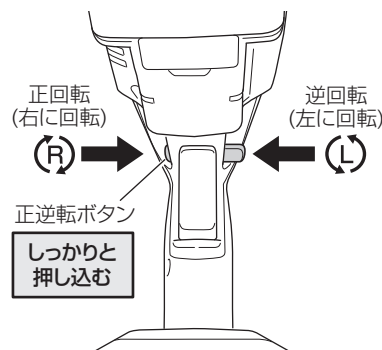


●回転方向の切り替え

右図のように正逆転ボタンの(R)側を押し込むと、先端工具はハンドル側から見て正回転(右回り)、(L)側を押し込むと逆回転(左回り)に切り替わります。

また、正逆転ボタンを(R)側と(L)側の中央の位置にしますと、スイッチがロックされて引けなくなります。

注 運転中、正逆転ボタンの切り替えはできません。



●1 充電当たりの作業量について

1 充電当たりの作業量の目安を示します。
(穴あけ数は、コンクリートの状態、使用環境、蓄電池の状態などにより異なります。)

形名 蓄電池		DH 36DPE	DH 36DPF*
作業内容 (mm)		BSL 36A18X	
ビット外径	深さ	作業量 (穴の数)	
8.5	40	約 100 個	約 85 個
10.5		約 80 個	約 65 個
12.5		約 75 個	約 60 個
14.5		約 55 個	約 45 個
16.5		約 45 個	約 35 個
18.0		約 40 個	約 30 個
20.0		約 35 個	約 30 個
24.0		約 20 個	—
28.0		約 10 個	—

※ DH 36DPF は、集じんシステムを取付けたときの作業量です。
集じんシステムを取りはずして使用した場合は、DH 36DPE と同じ作業量になります。

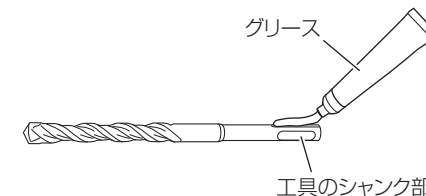
⚙️ 工具の取付け・取りはずし

この機体の工具取付け部は、SDS プラスシャンク品専用となっております。
SDS プラスシャンクの先端工具または接続工具を使用してください。

取付け

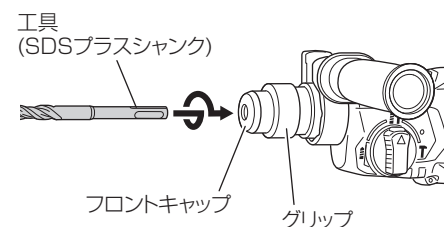
- 1 工具のシャンク部をきれいにふき、グリースまたは機械油を塗布します。
摺動が円滑になり、工具を押し込みやすくなります。また、工具のシャンク部や取付け部の磨耗が軽減されます。

1



- 2 工具をフロントキャップの穴にさし込み、奥まで突き当てます。

2 3

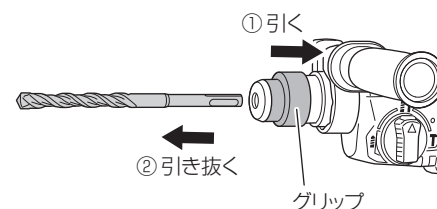


- 3 工具を軽く押しながら回していくと、引っ掛かりのある箇所が確認できます。
その箇所、工具を矢印方向へ奥に突き当たるまで押し込みます。
(工具装着時は、グリップの操作不要です。)

- 4 確実に工具が固定されたか、工具を引いて確認します。

取りはずし

工具を取りはずすときは、グリップを矢印方向へ一杯に引き、工具を引き抜きます。



作業モードの設定

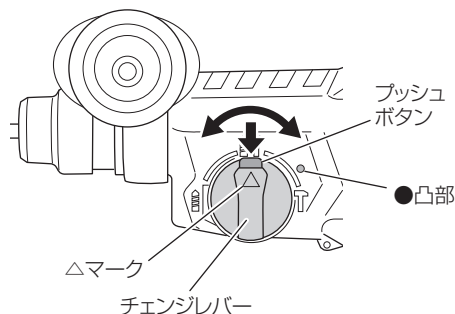
⚠注意

- モーターの回転時にチェンジレバーを操作しないでください。
不意に工具が回り、思わぬ事故の原因になります。
- ハツリ・破碎用工具などは"打撃"モードで使用してください。
"回転+打撃"モードで使用すると、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

作業モードの設定

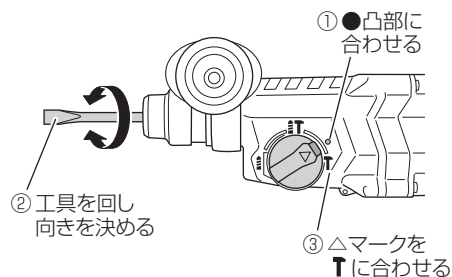
プッシュボタンを押し、チェンジレバーを回して△マークを各マーク位置に合わせます。

- ⚡……………"回転+打撃"モード
- ⚡……………"打撃"モード
- ⚡……………"回転"モード



工具の位置決め

コールドチゼルやカッタなどの工具先端の向きを決めるときは、チェンジレバーを回して、△マークを⚡マークと⚡マークの中間にある●凸部に合わせます。
工具を回し、向きを決めます。
次にチェンジレバーを回して、△マークを⚡に合わせます。



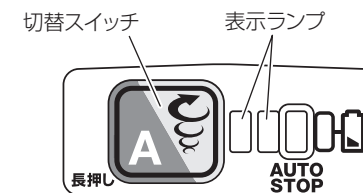
- 注**
- 確実にロックされているか、プッシュボタンを押さないでチェンジレバーが回らないことを確認してください。
 - "回転"でする作業を"回転+打撃"の状態で行うと穴あけ能率が上がらないばかりでなくドリルを傷めるので、十分注意してください。
ねじを締付ける場合は必ず"回転"の状態で行ってください。
また、"打撃"でする作業の場合は、必ず回転方向を正回転の(⌚)側に切り替えてください。
 - チェンジレバーの操作の際は、プッシュボタンを押してチェンジレバーのロックを解除してから行ってください。

回転数・打撃数の設定

切替スイッチを押すと、回転数・打撃数が2段階で切り替わります。

作業内容により回転数・打撃数を切り替えてください。

注 モーターの回転中は切替スイッチを押しても切り替えはできません。



表示ランプ点灯状態		
回転数 min^{-1} {回/分}	0 ~ 700	0 ~ 950
打撃数 min^{-1} {打撃/分}	0 ~ 3,170	0 ~ 4,300

オートストップ機能について

穴あけ時間を記憶し、記憶した時間で自動的にモーター停止するオートストップ機能が搭載されています。

注 穴あけ時間を記憶するもので、穴あけ深さを保証するものではありません。作業時の姿勢や機体の押し付け力、被削材の違いやばらつき、または電池残量などによって穴あけ深さが一定にならないことがあります。穴あけ深さのばらつきを少なくするには、デプスゲージを併用してください。

操作手順

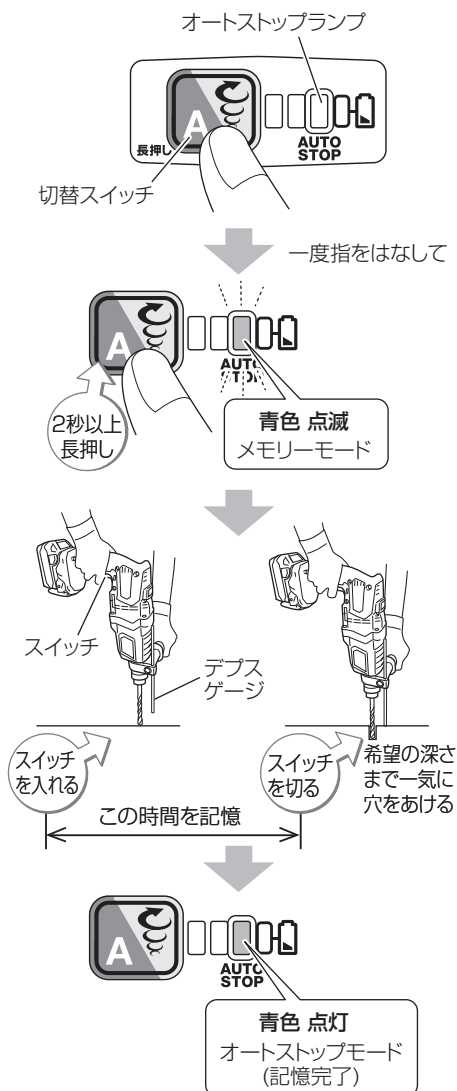
1 切替スイッチで、回転数・打撃数を選択します。

2 切替スイッチを2秒以上長押しします。オートストップランプが点滅し、メモリーモードに移行します。

3 工具の先を被削材に当ててスイッチを入れます。

4 希望の深さまで一気に穴をあけ、スイッチを切ります。時間が記憶されると、オートストップモードに移行し、ランプが点灯に変わります。これで記憶は完了です。

注 穴あけ作業中の、スイッチの引き具合による回転数の強弱は記憶されません。

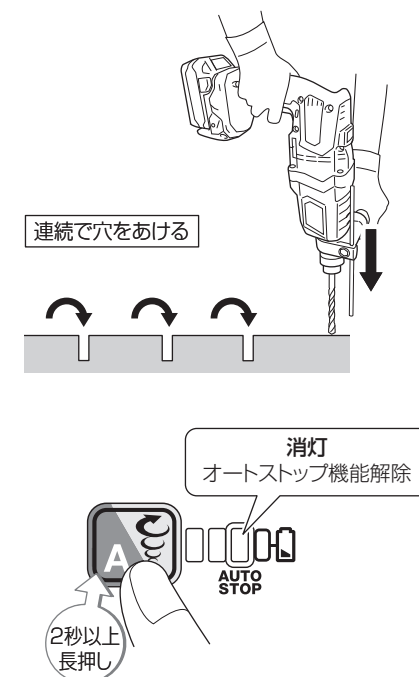


5 工具の先を被削材に当ててスイッチを入れます。

6 記憶時間に達すると、スイッチを入れたままの状態でも自動でモーターが停止します。記憶時間未満でスイッチを切ってもモーターが停止します。

注 • オートストップモード中は、穴あけを途中でやめないでください。
• 穴あけを途中でやめ、再度オートストップモードで再開する際は、穴あけ深さが異なってしまうので注意してください。

7 オートストップ機能を解除するときは、切替スイッチを2秒以上長押しします。オートストップランプが消灯し、オートストップ機能が解除されます。



注 オートストップ機能は、解除しないかぎりオン状態のまま持続します。

スリップクラッチ機構について

この機構は、作業中の機体に急激に大きな負荷がかかったとき、モーターとビットの間

(注 1)

の伝達部をスリップさせて、直接大きな反力がかかることを防止します。

(注 2)

注 1: コンクリートの穴あけ中に、鉄筋等に当たり急に先端工具が止まろうとする力

注 2: 先端工具が急に止まったとき、反動で機体側が回ろうとして、持っている手がねじられる力

注 スリップクラッチが作動し、ドリルビットの回転が停止した場合には、速やかにスイッチを切ってください。

RFC(リアクティブフォースコントロール)について

本製品は、工具本体が振られてしまう現象を軽減する RFC(リアクティブフォースコントロール)が搭載されています。

急激に大きな負荷が先端工具にかかる、スリップクラッチ機構が作動する、または工具本体に内蔵されたコントローラがモーターを停止させ、上記現象を軽減します。

スイッチを引いている間、表示ランプが点滅します。さらに、スイッチを切ってから約3秒間点滅します。

点滅している間はモーターが停止します。RFCが作動した原因を取り除いてから、作業を再開してください。

作業時の状況・条件等により作動しない、あるいは性能を十分に発揮できない場合がありますので、急激に大きな負荷が先端工具にかからないよう注意し、作業してください。

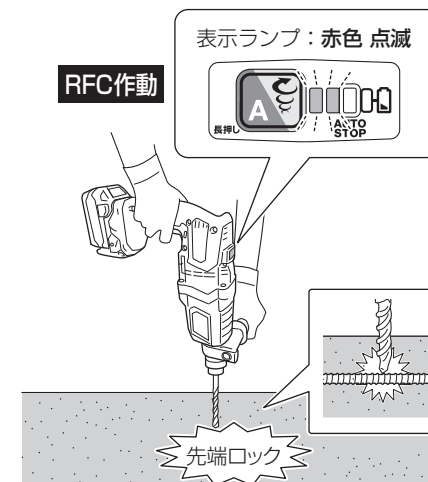
急激な負荷を発生させる原因

- ① 材料による先端工具のかみ込み
- ② 釘・金属などの接触
- ③ 機体をこじる作業・過度な押し付け

など、および、これらの複合的な原因があります。

RFC が作動したら…

RFC が作動してモーターが停止したときは、機体のスイッチを切り、大きな負荷となった原因を取り除いてから作業を再開してください。



保護機能について

本機には機体に異常が発生した場合に、機体の損傷を防ぐ保護回路が内蔵されています。

次のような場合には、表示ランプとお知らせランプが点滅して運転を停止します。点滅状況を確認して対処してください。



表示ランプ 点滅状態	原因	対処方法
	内部温度が高温となり、規定値を超えたため、運転を停止した。 (温度上昇保護機能)	15～30分ほど機体を休めてください。 温度が下がった後、表示ランプとお知らせランプの点滅が止むのを待ってからスイッチを押すと復帰します。
	急激に大きな負荷が先端工具にかかり、RFC が作動したため運転を停止した。 (P.22「RFC(リアクティブフォースコントロール)について」参照)	スイッチを切り、表示ランプの点滅が止むのを待ってからスイッチを押すと復帰します。 大きな負荷となった原因を取り除いてから作業してください。

注 対処方法を行っても表示ランプが点滅し続ける場合は、機体の故障が考えられます。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

作業上のご注意

●連続作業について

本機はモーターおよびモーターの駆動制御を行っている電子部品を保護するため、温度保護回路が搭載されています。

連続作業を行うと、機体の温度が上昇するため温度保護回路が作動し、自動停止する場合があります。

その際は本機を十分に冷ましてください。温度が下がれば再び使用することができます。

連続的に作業する際は、蓄電池の交換時に工具本体を15分程度休ませてから使用してください。蓄電池の交換後すぐに作業を続けるとモーター、スイッチなどの温度が高くなり、故障の原因になります。

なお、温度保護回路が作動しているときにスイッチを引くと、表示ランプとお知らせランプが点滅します。(P.23「保護機能について」参照)

●変速スイッチについて

スイッチには回転数を無段階に変速する電子回路が内蔵されています。従ってスイッチの引き込み量が少ない状態(低速回転域)で、モーターを停止させる作業を連続に行うと電子回路部品の温度が高くなり、故障の原因になります。

●機体の保持と押し付け力について

機体を両手で確実に保持してください。また、先端工具を必要以上に押し付ける必要はありません。先端工具にこじる力や押し付ける力が過度にかかる、機体が故障する原因になりますのでご注意ください。

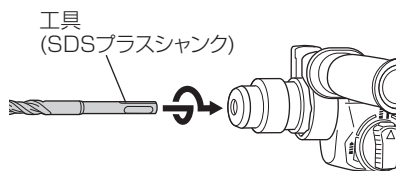
穴をあける

●コンクリート・タイルの穴あけ
●アンカの下穴あけ

集じんシステム取付けの穴あけ作業は、「ロータリハンマドリル用集じんシステム」の取扱説明書を参照してください。

1 工具を取付ける

P.16「工具の取付け・取りはずし」の
手順に従い工具を取付けます。



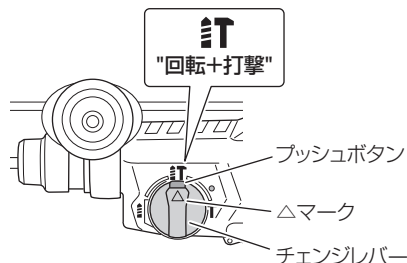
2 必要に応じて デプスゲージを取付ける

P.12「デプスゲージの使い方」を参照
してください。



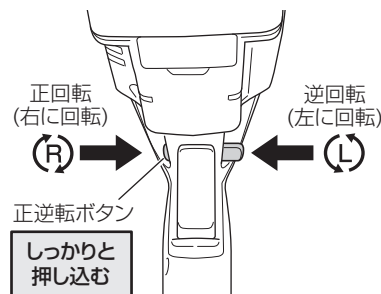
3 作業モードを "回転+打撃"に切り替える

プッシュボタンを押し、チェンジレ
バーを回してITに合わせます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



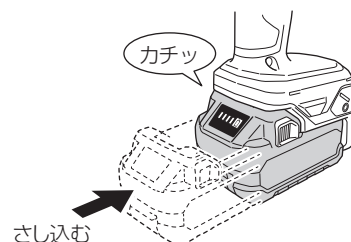
4 正逆転ボタンを(R)側から 押して正回転にする

(P.15「回転方向の切り替え」参照)



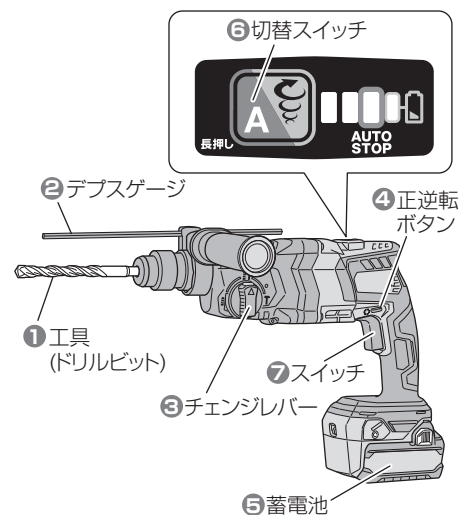
5 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで確実にさし
込んでください。
(P.13「蓄電池の取りはずし・取付け」
参照)



警告

使用中はサイドハンドルを取付け、
振り回されないようにハンドルと、
サイドハンドル両方を確実に保持して
ください。



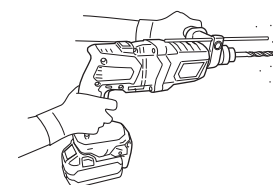
6 切替スイッチで回転数・ 打撃数を設定する

切替スイッチを押して、作業に応じた
回転数・打撃数を設定します。
(P.18「回転数・打撃数の設定」参照)



7 スイッチを入れる

- 穴あけ位置に工具の先を当ててから
スイッチを入れます。
- スイッチの引き具合で回転数を調整
してください。
(P.18「回転数・打撃数の設定」参照)

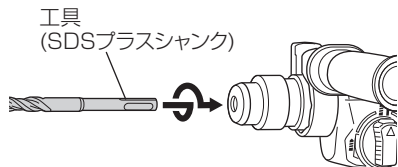


オートストップ機能を用いて 連続で穴をあける

"回転+打撃"モードで
コンクリートの連続穴あけ作業

1 工具を取付ける

P.16「工具の取付け・取りはずし」の
手順に従い工具を取付けます。

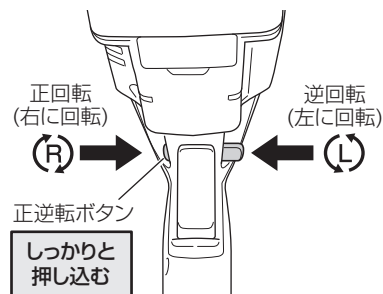


警告

使用中はサイドハンドルを取付け、
振り回されないようにハンドルと、
サイドハンドル両方を確実に保持して
ください。

4 正逆転ボタンを(R)側から 押して正回転にする

(P.15「回転方向の切り替え」参照)



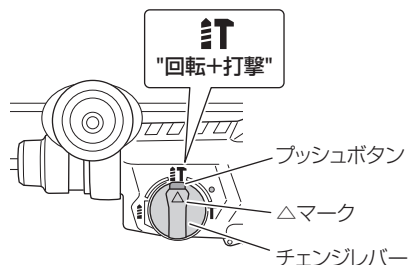
2 必要に応じて デプスゲージを取付ける

P.12「デプスゲージの使い方」を参照
してください。



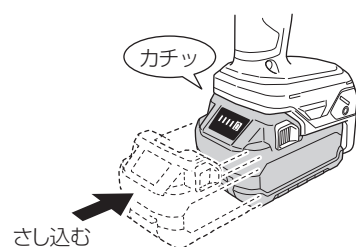
3 作業モードを "回転+打撃"に切り替える

プッシュボタンを押し、チェンジレ
バーを回してITに合わせます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



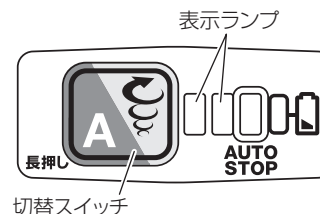
5 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで確実にさし
込んでください。
(P.13「蓄電池の取りはずし・取付け」参照)



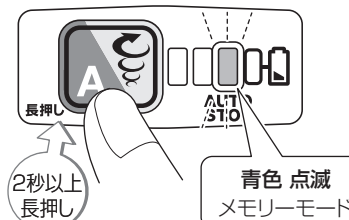
6 切替スイッチで回転数・ 打撃数を設定する

切替スイッチを押して、作業に応じた
回転数・打撃数を設定します。
(P.18「回転数・打撃数の設定」参照)



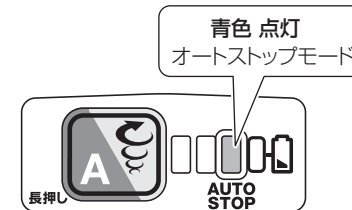
7 切替スイッチを長押しして オートストップランプを 点滅させる

(P.19「オートストップ機能について」参照)



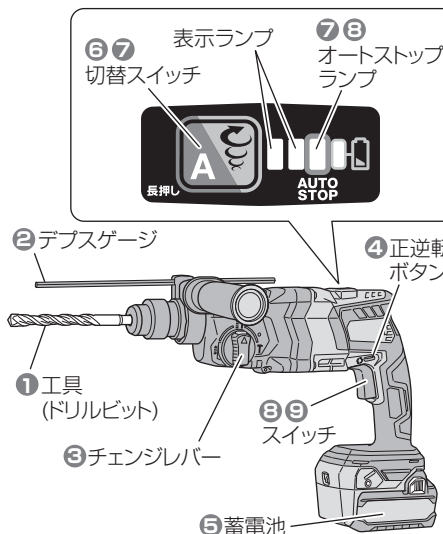
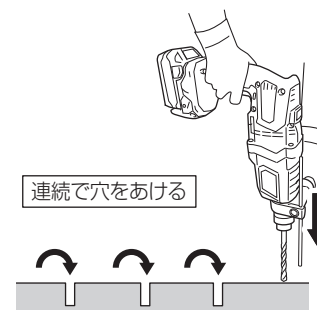
8 目標の深さまで穴あけを 一回行う

- 穴あけ位置に工具の先を当ててから、
スイッチを入れます。
- 目標の深さになるまで穴あけを行い、
スイッチを切ります。
- スイッチを入れてから切るまでの
時間が記憶され、オートストップモー
ドに移行します。
(P.19「オートストップ機能について」参照)



9 連続穴あけを行う

- (A) 穴あけ位置に工具の先を当ててか
らスイッチを入れます。
- (B) 記憶した時間でモーターが自動停
止します。
- (A)(B) を繰り返し、連続で穴あけを
行います。
(P.19「オートストップ機能について」参照)



ハツリ・破碎する

- コンクリートのハツリ・破碎・溝掘り・角出し・はがし

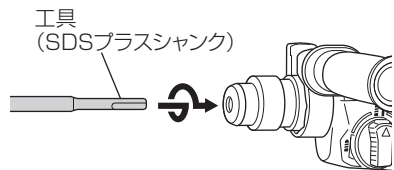
注 集じんシステムを取付けた状態では、使用できません。

⚠注意

ハツリ・破碎用工具などは"打撃"の位置で使用してください。
"回転+打撃"の位置で使用すると、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

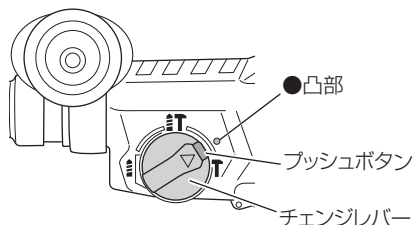
1 工具を取付ける

P.16「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い工具を取付けます。



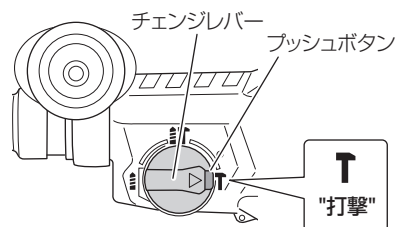
2 工具の向きを決める

コールドチゼルやカッタを使用するときは、プッシュボタンを押し、チェンジレバーを●凸部の位置に合わせ、工具先端の向きを決めます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



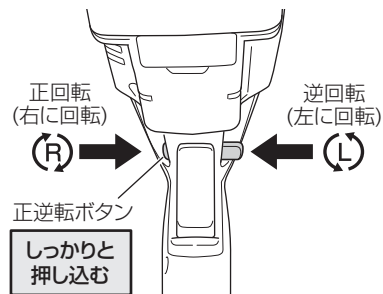
3 作業モードを"打撃"に切り替える

プッシュボタンを押しながらチェンジレバーをTに合わせます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



4 正逆転ボタンを(R)側から押して正回転にする

(P.15「回転方向の切り替え」参照)

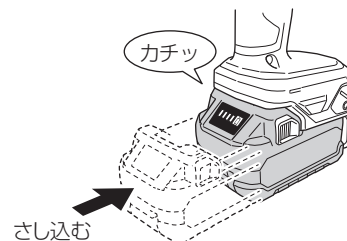


⚠注意

作業の際、機体を無理に押し付けしないでください。
反動を押さえる程度に押し付けて作業してください。無理に突きさしたり、押さえ付けたりしても作業の効率は上がりません。
床面のハツリ・破碎の際には、機体の自重を使用し、反動を押さえる程度に押し付けて作業してください。

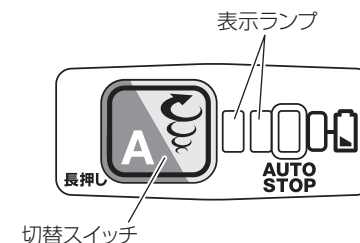
5 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで確実にさし込んでください。
(P.13「蓄電池の取りはずし・取付け」参照)

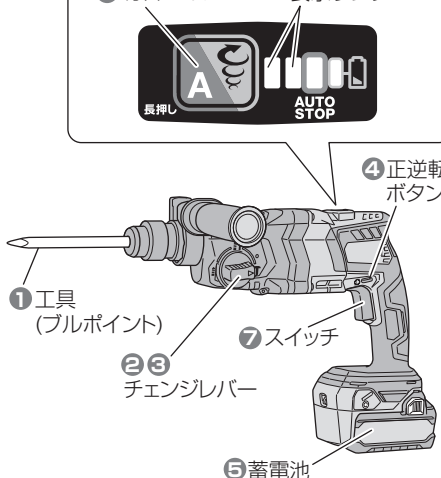


6 切替スイッチで打撃数を設定する

切替スイッチを押して、作業に応じた打撃数を設定します。
(P.18「回転数・打撃数の設定」参照)

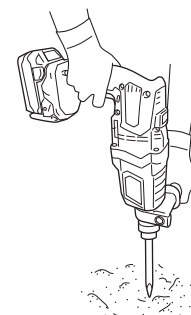


6 切替スイッチ 表示ランプ



7 スイッチを入れる

- ハツリ・破碎する位置に工具先端を当ててからスイッチを入れます。
- スイッチの引き具合で打撃数を調整してください。
(P.18「回転数・打撃数の調整」参照)



穴をあける・ねじを締付ける

ドリルチャック【別売部品】を使用して
●金属・木材の穴あけ
●小ねじ・木ねじの締付け

注 穴あけ・ねじ締めを行うには、別売部品のチャックアダプタセットを別途お買い求めください。

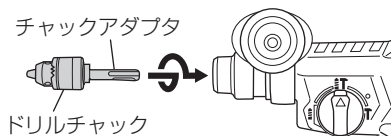
1 ドリルチャックにチャックアダプタを取付ける



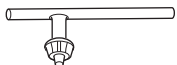
チャック 取付ねじ ドリル チャック チャックアダプタ (SDSプラスシャフト)

2 機体にチャックアダプタを取付ける

P.16「工具の取付け・取りはずし」の手順に従いチャックアダプタを取付けます。

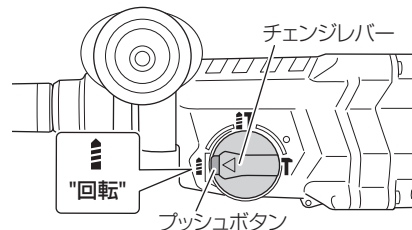


3 市販のドリル(ドライバビット)はチャックハンドルを使ってドリルチャックに取付ける



4 作業モードを"回転"に切り替える

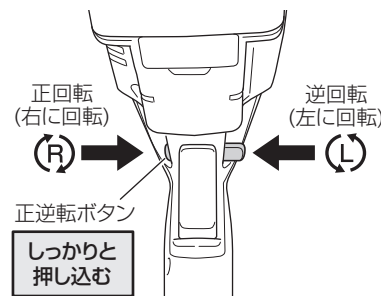
チェンジレバーを「**回転**」マークに合わせます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



注 チャックアダプタを使用して"回転+打撃"の作業はしないでください。

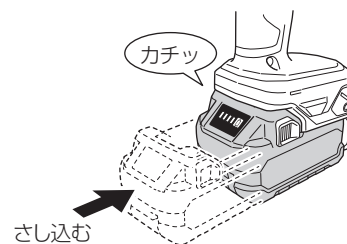
5 正逆転ボタンを押して回転方向を合わせる

(P.15「回転方向の切り替え」参照)



6 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで確実にさし込んでください。
(P.13「蓄電池の取りはずし・取付け」参照)

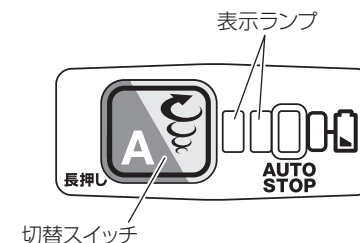


警告

使用中はサイドハンドルを取付け、振り回されないようにハンドルと、サイドハンドル両方を確実に保持してください。

7 切替スイッチで回転数を設定する

切替スイッチを押して、作業に応じた回転数を設定します。
(P.18「回転数・打撃数の設定」参照)

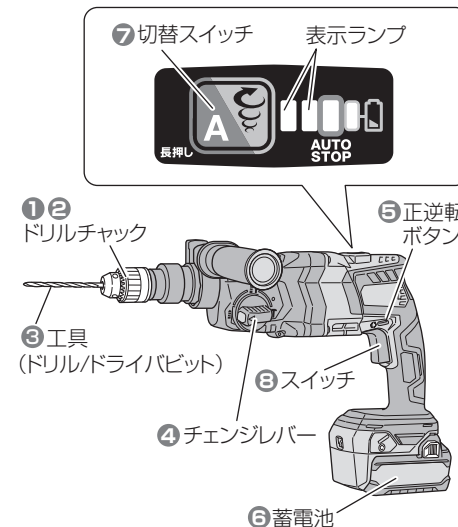
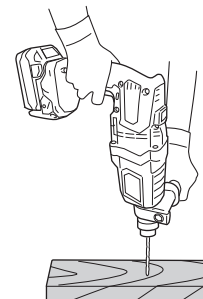


注意

穴の抜けぎわにドリルを折ることがありますので、穴の抜けぎわに機体を材料に押し付ける力をゆるめてください。

8 スイッチを入れる

- 作業を開始する前に次ページの内容をよく読んでください。
- スイッチの引き具合で回転数を調節してください。
(P.18「回転数・打撃数の設定」参照)



●木材に木ねじを締付ける

ねじの径より少し細いドリルで下穴をあけておくと木材に割れが入ったりせず、作業がしやすくなります。

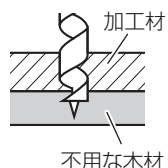
下表を参考にしてください。(できるだけプラス溝の木ねじを使用してください)

木ねじ呼び径 (mm)	3.1	3.5	3.8	4.1	4.5	4.8	5.1	5.5
下穴径 (mm)	2.0	2.2	2.5	2.9	3.3	3.6	3.9	4.3
	2.2	2.5	2.8	3.2	3.6	3.9	4.2	4.6

●木材にきれいな穴をあける

不要な木材を下に敷き、加工材と一緒にあける

木工ドリルが裏側へ突き抜けるときに発生するバリを防ぐことができます。



または

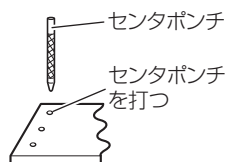
木工ドリルの先が少し裏側に 出たときに、裏側から穴をあける



●金属へ上手に穴をあける

市販のセンタポンチを使用する

鉄工ドリルの先が滑らず、決まった位置に穴あけができます。



さらに

鉄工ドリルの先に機械油か 石けん水をつける

穴があけやすくなります。

注 金属に穴をあける場合、穴の抜けぎわに大きな力がかかり、ドリルがドリルチャックから滑ることがあります。このような場合は、工具本体の押し付け力を弱め、ドリルが滑らないようにしてください。



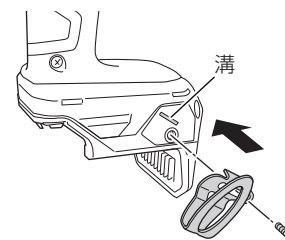
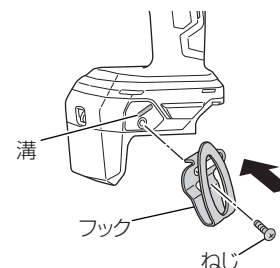
フック【別売部品】の使い方

運搬や保管時、補助的に使用してください。

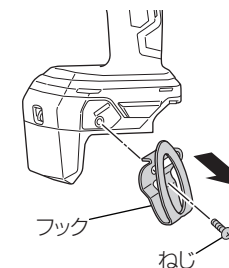
⚠注意

- フックを使用するときは、蓄電池を工具本体から抜いてください。
- フックを使用するときは、機体が落下しないように、しっかりと掛けてください。
- フックを使用するときは、先端工具を取りはずしてください。
- フックはしっかりと取付けてください。

プラスドライバーを使用して、ねじで取付けます。
フックは、左右に付け替えて使用することができます。



取りはずすときは、逆の手順で行ってください。

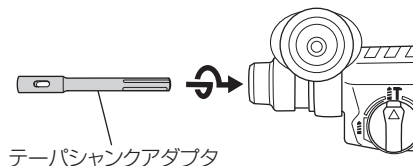


テーパシャンクアダプタ【別売部品】の使い方

テーパシャンクアダプタを取付けると、テーパシャンクタイプのドリルビットを使用できます。

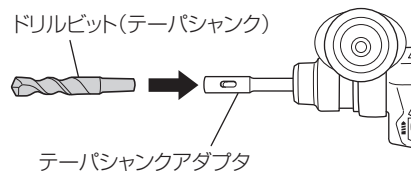
1 テーパシャンクアダプタを機体に取り付ける

P.16「工具の取付け・取りはずし」の手順に従いテーパシャンクアダプタを取付けます。



テーパシャンクアダプタ

2 ドリルビットをテーパシャンクアダプタにさし込む

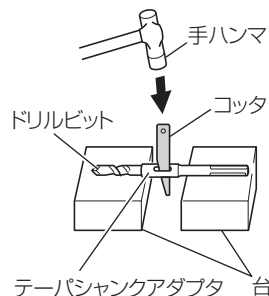


テーパシャンクアダプタ

3 以下 P.25「穴をあける」の②からの手順に従い作業する

4 ドリルビットをテーパシャンクアダプタから取りはずす

テーパシャンクアダプタの長穴部分にコッタを入れ、コッタの頭を手ハンマでたたいてはずします。



テーパシャンクアダプタ 台

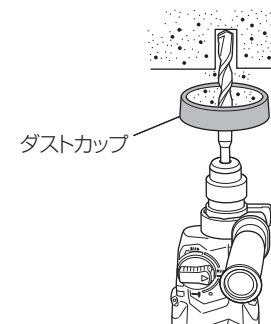
ダストカップ・集じんカップ (B)【別売部品】の使い方

上向き作業をする場合は、ダストカップまたは集じんカップ (B) を取付けると、切粉の落下が少なく、作業がしやすくなります。

ダストカップを使用する場合

ダストカップは図のように、ドリルビットに取り付けて使用します。

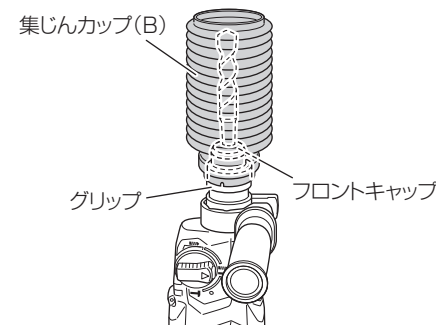
太径のドリルビットの場合は、ダストカップの中央の穴をドリルビットでひろげて使用してください。



ダストカップ

集じんカップ (B) を使用する場合

集じんカップ (B) を使用する場合は、ドリルビットを取付けた後、集じんカップ (B) を図のように先端から押し込んでください。



集じんカップ(B)

グリップ

フロントキャップ

注 •ダストカップおよび集じんカップ (B) は、コンクリートの穴あけ専用です。
金属、木材の穴あけには、使用しないでください。

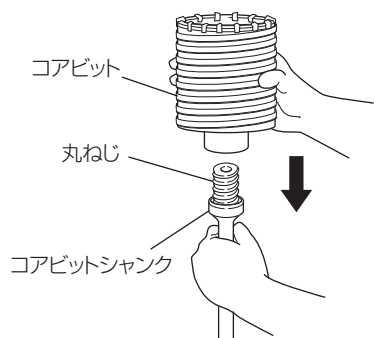
- 集じんカップ (B) はフロントキャップに密着するよう十分に押し込んでください。
- 集じんカップ (B) をコンクリート面からはなした状態でスイッチを入れると、集じんカップ (B) がドリルビットと一緒に回転してしまい、集じんカップ (B) がグリップ部からはずれることがあります。
コンクリート面に押し付けてからスイッチを入れてください。
〔全長 190 mm 以上のドリルビットとともに集じんカップ (B) を使用すると、集じんカップ (B) がコンクリート面に接触せず、回転してしまいます。
集じんカップ (B) は全長 166 mm、160 mm、110 mm のドリルビット用として使用してください。〕
- 粉じんは穴あけ 2 ～ 3 本ごとに捨ててください。
- ドリルビットの交換はダストカップ、集じんカップ (B) をはずしてから行ってください。

コアビット【別売部品】の使い方

コアビット、センタピン、コアビットシャンクなどのコアビット用別売部品をご使用になりますと、大口径の貫通穴、止まり穴をあけることができます。

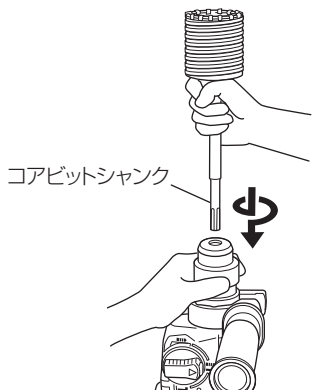
1 コアビットシャンクに コアビットを取付ける

丸ねじ部に油を塗っておくと、分解するときにゆるみやすくなります。



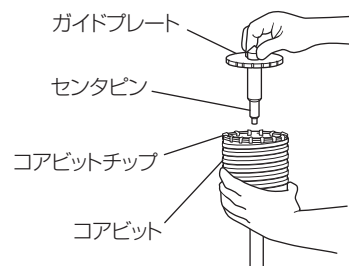
2 コアビットシャンクを 機体に取り付ける

P.16の「工具の取付け・取りはずし」と同じ要領で取付けます。



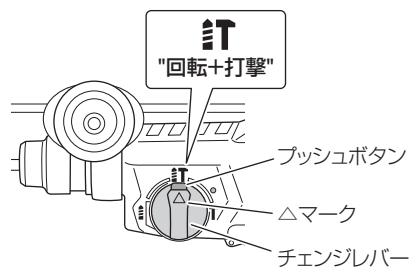
3 ガイドプレート、センタ ピンをコアビットに さし込む

- ① ガイドプレートにセンタピンを奥までさし込みます。
- ② ガイドプレートの凹部をコアビットチップに合わせてはめ込み、左・右どちらかに回します。



4 作業モードを "回転+打撃"に切り替える

(P.17「作業モードの設定」参照)

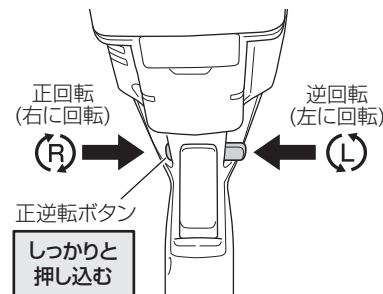


⚠ 警告

使用中はサイドハンドルを取付け、振り回されないようにハンドルと、サイドハンドル両方を確実に保持してください。

5 正逆転ボタンを(R)側から 押して正回転にする

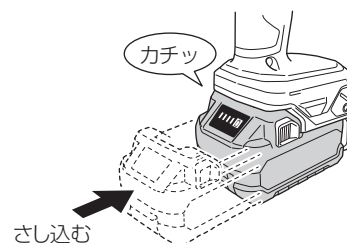
(P.15「回転方向の切り替え」参照)



6 蓄電池を取付ける

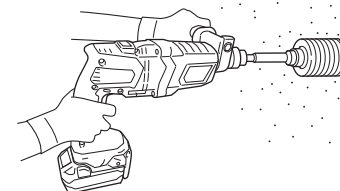
「カチッ」と音がするまで確実にさし込んでください。

(P.13「蓄電池の取りはずし・取付け」参照)



7 スイッチを入れる

- あけたい穴の中心にセンタピンを合わせ、穴あけを開始します。
- スイッチの引き具合で回転数を調整してください。
(P.18「回転数・打撃数の設定」参照)



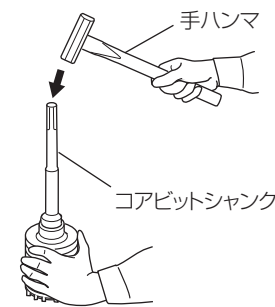
8 位置決め完成

約5mm穿孔すると、位置決めの溝が完成します。

コアビットからセンタピン、ガイドプレートを取りはずします。
完成した位置決めの溝に合わせて、穴あけを再開します。

9 コアビットを取りはずす

機体からコアビットシャンクをはずしてコアビットを手で持ち、コアビットシャンクの頭を手ハンマで2～3回強打すると、丸ねじがゆるみ、取りはずすことができます。



保守・点検

⚠ 警告

- 点検・お手入れの際は、スイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。
- エアガンなどを用いて掃除する際には、保護メガネと防じんマスクを使用してください。
排出されたコンクリート粉じんを吸い込んだり、目に入る可能性があります。

●グリースの交換

この機体はグリース密封構造となっており、ほこりの侵入を防ぎ、長期間無給油で使用できます。

しかし、機体を長持ちさせるために 1 年ごとにグリースの交換をしてください。

注 機体へ使用しているグリースは特殊グリースです。他のグリースを使用した場合、性能を損なう恐れがありますので、グリースの交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

●先端工具の点検

摩耗した先端工具を使用するとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますので早めに研磨するか新品と交換してください。

●機体の点検

各部位の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。

ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。

異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

●清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。

ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

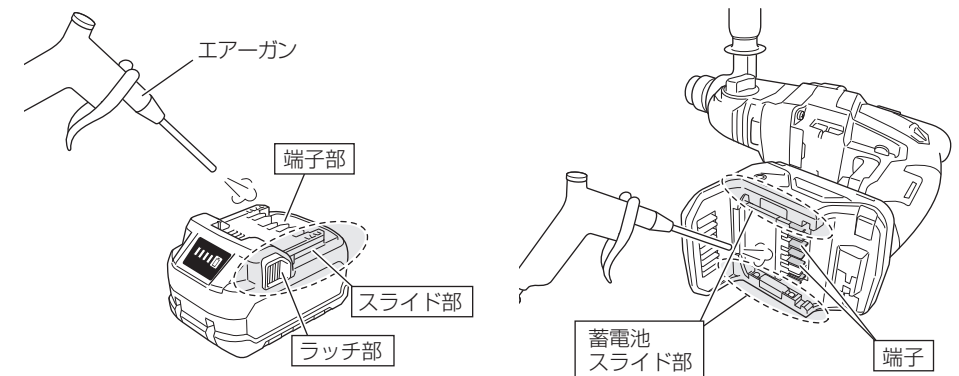
●端子部の点検

工具本体や蓄電池の端子部に切りくず、ほこりがたまっていないか点検してください。作業前、作業後のほかに作業中でも時々点検してください。

●蓄電池取付部・蓄電池の掃除について

コンクリート穴あけ後、下図各部にコンクリート粉じんが付着した際は、乾いた布やエアガンなどで付着したコンクリート粉じんを掃除してから、使用してください。

- 注**
- 掃除後、工具本体と蓄電池がスムーズに脱着することを確認してください。
 - コンクリート粉じんが付着したまま使用すると、使用中に蓄電池が落下するなど、事故の原因になります。また、蓄電池と端子の接触不良や故障の原因になります。



●モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）（P.8「各部の名称」参照）に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

- 注**
- ごみやほこりを排出するため、定期的に、モーターを無負荷運転させてください。
機体内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が 50℃ 未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が降りかかる場所、湿気がある場所
- 温度が急変する場所、直射日光が当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質が置いてある場所

メ モ

メ モ